

夏休み少年に空近くなる
(無所属) 川野智子

どの木にも風の来てゐる五月かな
(運河) 弓場 あす華

カーテンへ飛び付く猫や老草風
(伊吹嶺) 安藤 富基恵

第32回 俳人協会俳句大賞入選



高田 正子選



西村 和子選



能村 研三選

◎向日葵の黄は人類を悼む色

(雲取)

物江里人

◎来年も逢ふ約束の桜かな

(春耕)

小林啓子

◎「ただいま」はずつと空耳終戦忌

(繪硝子)

西浦 すみ恵

愛されて子は厭けまはる冬日向

(予感)

花野くゆ

葉桜やかつてスーツで往きし街

(青麗)

ジョニー平塚

どの山の寝息だらうか冬桜

(城・幡)

下村 やす子

地震跡をあはれ祭の火が走る

(辛夷)

太田 硯星

両手で外す新調のサングラス

(街)

藤崎 幸恵

どの木にも風の来てゐる五月かな

(運河)

弓場 あす華

かなかなやかりそめながら里こころ

(銀漢)

小泉 良子

はくれんの閉ちこめてゐる月のいろ

(パピルス・青麗)

仙波 玉藻

朝顔やその後を知らぬ人はかり

(初蝶)

原 瞳子

南風沖ノ鳥島より来たり

(対岸)

植野 康二

一鳥のごとき一村ほととぎす

(青麗・樹水)

二階堂 光江

入る蟻出る蟻のゐてぶつからず

(秀)

水島 直光

タラップを降りて砂漠の月仰ぐ

(香雨)

衣川 由美

糸取や記憶の奥に匂ふ軒

(百鳥)

中島 瑞枝

太陽に匂ひありけり麦の秋

(鷹)

斉藤 扶実

少しさき歩いて行かれ星祭

(晨・円座)

白石 喜久子

玉の汗まだ老人となりきれず

(鳩の子)

野口 喜久子

青息も吐息も暑さしのぐ息

(運河)

森山 久代

閑けさや巖滴る音を得て

(いには・アカシヤ)

名取 光恵

七人の敵も老いたり泥鰌鍋

(春野)

関山 恵一

◎満月や抱き起こしたる妻軽き

(沖)

岩波 博庸

◎左手が労る右手肝葉

(青垣)

島本 知子

◎草いきれ弟だまつてついでくる

(火神・磁石)

金田 佳子

膝打つて炎天へ出る庭師たち

(濃美)

前川 けい子

放棄田の怒濤のごとき真葛かな

(百鳥)

溝口 ゆき

鵬の羽風はかくや夏野原

(太陽)

吉原 文音

葦切りや大河へ艇庫開き切る

(河鹿)

淵 協

眠りたる海中火山夏の月

(春燈)

稲田 覚

百年の土間のでこぼこ屋の虫

(風の道)

古郡 孝之

喜びを廻してをりぬ春日傘

(山藁)

松尾 紀子

山法師咲いてみちのく水豊か

(香雨)

猪俣 洋子

おのづから身の軽くなる祭足袋

(沖)

杉本 光祥

昭和より令和に戻る昼寝覚

(草萌)

田坂 泰宏

五眼目の窓白くなる雪へ雪

(香雨)

近藤 昶子

折りたたみ自転車提げて旅薄暑

(山茶花)

高橋 翠

淋代の霧ふかき日は波の鳴り

(薫風・沖)

秋谷 美智子

一幅は立子的一句夏料理

(ひろそ火)

小林 ゑつ子

麻服を脱ぐや葉擦れの音立てて

(万象)

荻野 加壽子

黙礼に応へてはづすサングラス

(香雨)

山田 敦子

テラーの床に糸屑星祭

(香雨)

森 瑞穂

郭公や見えざる雨に水輪ふえ

(香雨)

田村 登代子

みどり児の一生懸命汗をかく

(銀化)

丘 のぼる

何のデモなるや落葉を踏みゆくは

(香雨)

西田 拓郎

天平の薨かすめて初燕

(運河)

清水 修

◎天上のものとも仰ぐ朴の花

(沖)

岡部 玄治

◎このぞめき風が祭を運びくる

(汀・晨)

岡本 戎

◎折鶴に千の息あり長崎忌

(椽)

宮田 早智子

夜のありてこそ現世星祭

(香雨)

西山 春文

ぼうたんの散るは羽衣ぬぐやうに

(香雨)

伊勢 弘江

水打つて風の眠りを覚ましけり

(海坂)

大平 悦子

裸てふ無敵の鯉赤ん坊

(ろんど)

すすき 巴里

未来とはまぶしき言葉雲の峰

(アカシヤ)

佐藤 れい子

折鶴の嘴尖がらせよ原爆忌

(山茶花)

本田 理恵

禁猟区猟区緑雨のひとしなみ

(いには)

村上 喜代子

包丁は厨の葉器瓜刻む

(いには)

奈良 一雄

半仙戯より始まる桐の道

(天為)

西脇 はま子

冷奴つつく情報弱者達

(鷹)

折勝 家鴨

しやばん玉我に秘めたる未来あり

(河)

川崎 陽子

光にも風にも紛れ花柳

(雨蛙)

加藤 一男

滝音は水の慟哭地を鳴らす

(創生・天穹)

星加 鷹彦

残心の弓手まつすぐ風光る

(無所属)

山本 麻沙子

うつし世の色まだ持たず羽化の蟬

(櫟)

矢野 道子

揚羽来るラピスラズリは神の色

(銀漢)

森崎 森平

あをぞらの底ひ八月十五日

(鷹)

井上 宰子

海色に透きてたゆたふ水母かな

(樹)

堀内 裕子

闇降ればあの世の世の踊唄

(汀)

岡本 晶穂

海開き水平線へ一礼す

(棧雲)

石黒 志ほ